

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 5 日現在

機関番号：23101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11667

研究課題名(和文)性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築

研究課題名(英文)Creation of a Medical System that makes use of Sexual Assault Nurse Examiners

研究代表者

境原 三津夫 (SAKAIHARA, MITSUO)

新潟県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：30332464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：わが国では2012年以降、都道府県において「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」の開設が急速に進んでいる。一方で、性暴力被害者の支援を専門とする性暴力被害者支援看護師(SANE)の養成が進められている。しかしながら、性暴力被害者支援看護師のほとんどは病院に所属しているためその活用が進んでいないのが現状である。ワンストップ支援センターの多くは相談センターを拠点とするものであり、今後、これらを病院拠点型の組織へ移行していくことでSANEの有効な活用につながっていくと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In Japan, the establishment of one-stop support centers for victims of sex crimes and sexual assault has continued rapidly across the nation since 2012. At the same time, the training of many sexual assault nurse examiners (SANE) who specialize in supporting the victims of sexual violence has commenced. However, as the majority of these professionals are affiliated with hospitals, they have been unable to support the victims efficiently through a lack of co-ordination between these two support systems. It is our consideration that the victims of sexual assault would be better served if the one-stop support centers were to be hospital-based, thus allowing SANE to support the victims efficiently.

研究分野：産科婦人科学

キーワード：性暴力被害者支援看護師 SANE ワンストップ支援センター

## 1. 研究開始当初の背景

性暴力被害者支援看護師(SANE: Sexual Assault Nurse Examiner)は1995年に米国看護協会において特定分野として認定されて以来、米国や、カナダを中心として活躍している。米国では約20年が経過し、SANE養成プログラムの検証や実務におけるSANEの活動の成果が検証されるようになってきた。

英国では2001年にSANEが導入され、多職種チーム内で活動するSANEについて検証が行われ、国内で統一した活動モデルを作ることが提案されている。わが国と医療制度が似ている英国では多職種チームの一員としてSANEが活動している。英国のSANEは質の高い身体的・精神的ケアと信頼度の高い法医学的検査を行うことを求められている。

わが国においても性暴力被害者に対する専門家による支援を目的として、2000年よりSANEの養成を開始し、性暴力被害者支援の専門看護職として日本フォレンジック看護学会において認定する方向へ進みつつある。

一方、2012年に内閣府犯罪被害者等施策推進室が「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター開設・運営の手引」を作成し、その開設と運営の方法が具体的に示し、都道府県において開設が急速に進んでいる。これらは互いにリンクしておらず、性暴力被害者の支援機能が十分に果たせずにいるのが現状である。

## 2. 研究の目的

性暴力や児童に対する性的虐待は、生涯にわたって被害者の身体のみならず精神に深い傷を残すため、被害直後から集中的なケアが必要になる。わが国では、被害直後の身体的診察や法医学的検査は産婦人科医(8割が男性)が担っており、女性が被害者の場合は精

神的な二次障害が懸念されている。性暴力・性的虐待に関して総合的な研修を受けた専門性の高いSANEを、わが国の性暴力被害者支援の現場で有効に活用することにより、被害者の身体的・精神的負担を最小限にし、立ち直りを有効にサポートするためのシステムを構築することを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1)米国におけるSANEプログラムの効果に関する文献的検討

SANE研究の第一人者であるRebecca CampbellがSANEプログラムの効用を概説した“The effectiveness of Sexual Assault Nurse Examiner (SANE) Programs”および“Handbook on Sexual Violence”の中で、SANEプログラムが地域社会における性暴力の抑止に果たす役割を中心にまとめた“Changing the community response to rape: the promise of sexual assault nurse examiner (SANE) programmes”を参考にし、わが国の医療システムにSANEプログラムがなじむか否か検討した。

(2)米国及びわが国における性暴力被害に関する調査結果の検討

米国において実施された以下の性暴力被害の大規模調査を比較検討した。米国司法省による“The Sexual Victimization of College Women”、米国立司法研究所による“The Campus Sexual Assault (CSA) Study”、米国大学協会(AAU: The Association of American Universities)。

わが国において実施された以下の性暴力被害調査を比較検討した。小西による「日本の大学生における性被害の調査」、中嶋らによる「沖縄県在住大学生アンケート」、石井らによる「性的被害によるトラウマ体

験がもたらす精神的影響 東京都内女子大学生調査の結果より 』

(3) オーストラリアにおける性暴力被害者支援の取り組みに関する聞き取り調査

性暴力被害者の支援および予防に、病院と行政が協力して取り組んでいるオーストラリアのビクトリア州メルボルンにあるThe Royal Women's Hospitalの一部門であるCASAハウスを訪問し聞き取り調査を行った。

(4) わが国の性暴力被害者支援の中心を担う「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」に対する聞き取り調査

内閣府のホームページで公開されている「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（一覧）」に掲載されている39施設を対象として現状と課題に関して聞き取り調査を行った。

(5) これらの資料をもとにわが国におけるSANEを活用した性暴力被害者支援システムのあり方について考察した。

#### 4. 研究成果

(1) 「SANE プログラム」は特別にトレーニングされた性暴力被害者支援看護師(SANE)が24時間365日、主に病院をベースとして性暴力被害者に初期ケアを提供する事業である。1976年に米国テネシー州で看護職者が法医学的証拠採取を行ったのが始まりとされ、起訴を前提とした法医学的証拠採取や創傷の評価、性感染症の治療、妊娠の評価や避妊法だけではなく、性暴力被害の心的外傷に関する対応など広範囲にわたるトレーニングを受けている。そして、被害者の尊厳を守り、被害者が証拠採取によりさらなる心的外傷を受けないよう努め、証拠採取のプロセスを通じて被害者が自己決定できるよう配慮することで、自己をコントロールする力を回復できるよう援助する。米国では、病院の救命救急センターにSANEが配置され、被害者に対して集中して専門的な支援を行うことで、

性暴力被害の2次予防・3次予防を担っている。

(2) 2000年12月にアメリカ合衆国司法省が女子大学生における大規模な性暴力被害調査を実施し調査報告書“The Sexual Victimization of College Women”を公表した。性暴力被害は暗数が多く、その実態は十分に把握されていないが、この報告書は合衆国における女子大生の性暴力被害をアンケートおよび電話による聞き取り調査であり、信頼度の高いものである。この調査では、年間約5%の女子大学生がレイプ被害にあっていると推定している。ほとんどの被害者は加害者と面識があり、警察に届出がなされることはほとんどない。

最新の大規模な性暴力被害調査は、米国大学協会(AAU: The Association of American Universities)による調査である。これは、大学における性暴力被害の実態を把握し、予防策を検討するために、2015年に実施され動燃に調査結果が公表された。調査対象は米国大学協会に加盟する26大学を含む27大学の大学生と大学院生の計150,072人で、emailを用いて行われた。大学入学後に身体的暴力や脅迫、抗拒不能状態で同意のない性交を経験した女子大学生は10.8%であり、性暴力被害全体では23.1%であった。また、調査時点までの1年間に限ると、身体的暴力や脅迫、抗拒不能状態で同意のない性交を経験した女子大学生は4.9%、性暴力被害全体では13.2%であった。

わが国の調査は米国に比べると小規模であるが、同意のない性交を経験した女子大学生は4%前後となっており、米国と同様であった。わが国においても大規模調査を行い実態を把握するとともに、対策を講ずる必要がある。

(3) 性暴力被害者の支援および予防に、病院と行政が協力して取り組んでいるオーストラリアのビクトリア州メルボルンにあるThe Royal Women's Hospitalの一部門であるCASA

は、性暴力被害者を支援する組織であり、性暴力を受けた被害者を24時間体制で支援し、被害者へのカウンセリング、被害者をサポートする友人や家族への電話相談、他の専門職へのアドバイスや教育、公共での性暴力に関する啓発活動等を行っている。CASAハウスの活動のひとつに、中学生・高校生を対象とした性暴力防止プログラムの開発・実施がある。これは、性暴力に関する知識を深めることで、男女共に性暴力に関する対応能力を向上させることをねらいとしており、性暴力の発生を防止するために学校全体で取り組む予防プログラムとして位置づけられている。このプログラムは性暴力の1次予防に寄与するものであり、わが国でもその取り組みが紹介されており、今後の普及が期待される。

(4) 内閣府のホームページで公開されている「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（一覧）」に掲載されている39施設を対象として聞き取り調査を行った。わが国のワンストップ支援センターは病院を拠点とするものが全体の26%と少なく、電話相談についても365日24時間体制で支援している施設は全体の24%であった。性暴力被害は夜間、休日を問わず発生し、初期対応が最も重要であることを考えると365日24時間体制を整えることが望まれる。それを実現するには病院を拠点とする組織へ移行していくことが望ましいと考えられ、それは同時に病院所属の性暴力被害者支援看護師の専門的能力を活用することにつながっていくと考えられる。

(5) 性暴力は被害者の身体のみならず、精神に対しても生涯にわたり大きな傷跡を残す。このため、発生早期に身体的治療が行われるとともに、精神的ケアがなされることが望ましい。早期の介入により精神的傷害を最小にとどめ、慢性化することを予防し、被害者が通常の社会生活を営むことができるようサポートすることが最優先とされ、2次予防及び3

次予防を中心に対策がとられてきた。これらの充実に伴い、近年では性暴力の発生自体を防ぐ1次予防の重要性が認識されるようになった。

2015年にアメリカ大学協会が実施した調査研究において、女子大学生の10.8%が入学後にレイプ被害にあい、性暴力被害全体では実に23.1%の学生が被害にあっているという驚くべき結果が示された。「性暴力なき社会」を実現するためには、性暴力被害を被害者の責に帰するのではなく、社会全体としてその発生予防に取り組む必要がある。

わが国では、2000年から性暴力被害の2次予防及び3次予防の担い手として、性暴力に関する専門的な研修を受けたSANEの養成を開始した。しかしながら、病院拠点型の性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターが少ないため、専門職としてその力を発揮できずにいる。社会資源を有効に活用するために、今後、性暴力被害者支援看護師を1次予防の取り組みに活用するシステムを構築することが必要であると思われる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

石原千晶、Simon Elderton、境原三津夫、わが国における性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と今後 性暴力被害者支援看護職の活用に向けて、日本セーフティプロモーション学会誌、11(1)、31-36、2018、査読有  
境原三津夫、Simon Elderton、坂上奈瑠美、性暴力被害の予防に関する文献的考察 2次予防・3次予防から1次予防へ、日本セーフティプロモーション学会誌、10(2)、43-50、2017、査読有

[学会発表](計2件)

石原千晶、Simon Elderton、境原三津夫、わが国における性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの実態、第

11 回日本セーフティプロモーション学会、  
2017.12.2～3、朝霞市  
境原三津夫、Simon Elderton、坂上奈瑠美、  
女子大学生の性暴力被害 1次予防を考  
える、第10回日本セーフティプロモ  
ーション学会、2016.12.10～11、京都市

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

境原 三津夫 (SAKAIHARA MITSUO)  
新潟県立看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：30332464

### (2)研究分担者

Simon Elderton (SIMON ELDERTON)  
新潟県立看護大学・看護学部・講師  
研究者番号：30512066